

シルバー通信

連協便り

S A 養成講座継続に関する取組み

シルバーアドバイザー養成講座は、開設以来20年の歴史を持っています。

大阪府知事よりシルバーアドバイザー称号認定を受けている方が、大阪府下で1,793名おられます。各地域でのボランティア活動のリーダー的な役割を果たしております。この活動の灯を消してはならないと思い近隣のシニアグループと手を携えて組織の立上げを推進してまいりました。

2008年9月9日「NPO法人大阪府高齢者

大学校」の設立が決まりました。この事により、シルバーアドバイザー養成講座ならびに高齢者大学講座が、大阪府の協力・支援を得て市民の手によって継続されることになりました。

S A 連協の組織活動のあり方をしっかりと議論し、シルバーアドバイザーの振興を図ります。

目的：

ますます進行する少子高齢化社会で、元気なシニア世代が、教室で自らの学習を積み上げることと併せて、これまでの各分野での社会・人生経験を生かして、地元地域での町づ

第39号の2 (平成20年度-2号)

2008年12月発行

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
連絡先 〒540-0012

大阪府中央区谷町5-4-13

大阪府谷町福祉センター

06-6337-1085 (理事長宅)

URL <http://sa-renkyo.com>

理事長 佐藤宏一 (吹田 18期国際)

くり・コミュニティづくりなど、社会に貢献する多面的な活動(事業)を行なう。

講座：共通科目 おおさか学 [年20講座]

(大阪の気候、風土、歴史、文化、経済、現代)

専攻科目

[年30講座]シルバーアドバイザー養成・地域交流コーディネーター科 (50名)

シルバーアドバイザー養成・多世代交流科 (50名)

自然アウトドア科 (40名)、

園芸科 (50名)

笑いで健康づくり科 (40名)

歴史科 (50名)

考古学科 (50名) 英会話科 (45名) 美術科 (50名) 朗読語り部科 (45名) 古典を歩く科 (50名) ITコミュニケーション科 (30名)

定員：

1クラス50名程度、
全体12クラス550名

受講料：

年4万7千円 + NPO法人年会費3千円 (合計5万円) 教材費等は別途

教室：

piaNPO (港区) エール学園 (難波)



大阪府高齢者大学校 理事会

大阪府社会福社会館(谷町7丁目)、
その他
事務局：
piaNPO (大阪市港区築港 2-8-24)
TEL:06-6571-5511 FAX:06-6571-5411
事業予定：
公開講座、グリーンツーリズム、地域
の親子向けイベント など
特 徴：
専攻科目とは別に共通科目として、おおさ

か学講座を開講。
修了すると再受講はできなかったが、講座
を変えての受講を受け入れる。
各地域・地元の同窓会ならびに連絡協議会
との交流に参加する。
諸行事の実施 ・文化祭・体育祭の開催、
写真・美術展 など
法人認証：
法人申請 平成 20 年 9 月 16 日
法人認証予定 平成 21 年 1 月中旬

シルバーアドバイザー認定式開催

平成 20 年 9 月 17 日、シルバーアドバイザー認定式が開催され、本年度は、新規認定者(20 期生) 217 名、継続更新者 429 名、合計 646 名が、大阪府知事より認定されました。SA 連協からは佐藤理事長が出席し、祝辞を述べました。

《佐藤理事長祝辞要旨》
この度、シルバーアドバイザー称号認定をお受けになられた皆様、おめでとうございます。
シルバーアドバイザー養成講座を修了された方は延べ 3,395 名、うち称号認定者は全体で 1,793 名となりました。SA 連協の会員は 1,013 名です。
ボランティア活動を活性化するために入会をお待ちしています。

私たちは、大阪府下の各地域に密着した形でボランティア活動を推進し、「まちづくり」「子どもの健全育成」「高齢者の自立支援」「自らの生きがいくくり」などの社会貢献をめざしております。

大阪府は、財政改革のために今年度でシニア講座の廃止を決定いたしました。しかし、私たちは SA 講座開設以来 20 年のボランティア活動の灯を消してはならないと思ひ、新たな NPO 法人「大阪府高齢者大学校」を結成し、民の力で平成 21 年度も SA 講座を継続開講することにしました。現在、来年 4 月開講に向けてのカリキュラム検討会を推進



祝辞を述べる佐藤理事長

しておりま
す。私は、今日このボ
ランティアウェアを着
てまいりました。これ
は先輩たちから引き継
がれたもので、SA こ
こにありと活動すること
のシンボルと思ってお
ります。

認定証を持っていて
も地域の行政は認知し
てくれないという話をよく耳にします。それはむしろ私たち自身の行動に掛かっているのではないのでしょうか。

最近では、茨木、吹田、箕面、池田、はびきの、富田林、堺などで市長と直接かかわりを持ち地域活動を展開できていると聞いております。このような場でより効果的に活用頂き、この認定証をもっと価値あるものにして頂きたいと思ひます。

私は、中国の天津職業大学との日本語支援文化交流を行っています。これにはこの認定証があることで中国の信頼を得ることができ、素晴らしい国際交流に結びついています。

これからも、自らの知識、経験、技能を生かし、地域社会が求めるニーズに適したボラ

ンティア活動を推進し、地域の活性化に貢献していききたいと思います。

皆様が健康に留意しながら、明るく、楽しく活動を続けられるようお願いいたします。

SA 連協および関連団体のイベント報告

広報誌部長 服部 早樹子 (大阪市 19期福祉 IT)

9月から11月にかけてはSA連協や関連団体にとっては、イベントの秋でもありました。今秋に開催されましたいくつかのイベント取材しました。

SA 養成講座 21期生との交流会

シルバーアドバイザー養成講座 21期生へのSA連協の紹介と地区別活動状況紹介プレゼンが9月22日(月曜日コース)と25日(木曜日コース)に大阪府福社会館で行われました。地区別活動状況は、SA吹田、大阪市SA

連絡協議会、SA富田林の各代表が発表し、21期生に大変好評を博しました。地域の特性を大いにPRし活動の活性化を特徴付けた内容でした。受講生も修了後は地域での活躍が期待されます。



SA吹田 小川会長



大阪市SA 上島会長、服部副会長



SA富田林 平田会長、塩見副会長

タイ・アジア国際交流協働フェスティバル

10月3日に国際交流NPOの拠点piaNPO(関西国際交流団体協議会)で、日タイ国際交流推進機構(JTIRO)主宰による『タイ・アジア

国際交流協働フェスティバル』が開催されました。来年度から新設予定の大阪府高齢者大学の事務局も予定されているので取材しました。

(特活)シニア自然大学、日本タイ教育交流協会、(特活)シニアアドバイザースタッフ大阪が協働、タイ政府機関、タイ国際航空が後援。大阪市立大学大学院(創造都市研究科)関西国際交流団体協議会が協力と言う強力な布陣ながら、なごやかな雰囲気の下、楽しい一時を過ごしました。

第一部は「癒しの王国タイ(タイ国政府観光庁)の映像上映が有り、観光立国として発展して行くタイの現在を確かめました。

第二部は「アジア新時代、変容する東南ア



NPO法人シニア自然大学副理事長堤氏挨拶

「アジアの町の文化」と題して大阪市立大学大学院・東京大学情報科学研究センター、小長谷



タイの古典舞踊

一之教授の講演会がありました。日本も王宮の建築方式等を見ると正しくアジアの一員で有ることがわかりました。

第三部は「魅惑の鼓動、タイ伝統音楽と古典舞踊の真髄」としてタイ伝統音楽研究家として著名な福田明子氏が伝統楽器の紹介をされ又来日中のチューラーロンコン大学准教授、カンコン氏が演奏されました。又、タイ舞踊研究家の岩沢孝子氏がタイ古典舞踊のキンカラ踊りを披露されました。お手製と言う事でしたが、全身金色の服、金冠 背中に羽根を付け眩いばかりでしたが、見事な踊りでした。優しく温かいタイの楽器のリズムが耳に残っています。

四天王寺秋の大古本まつり

10月10日～14日に四天王寺で古本祭りが開催されました。大阪府 SA は、NPO SA ネット大阪と共催で、毎年「親子で楽しむ手作りおもちゃ教室」のコーナーを設けて、参詣の方々に教えております。大古本まつりは今年で第8回になり「懐かしの雑誌大集合」と標され特集を組まれていました。

広い境内に多くのテントが整然と並び、立ち止まって見入っている人が大勢おられて賑わっていました。以前と変わらぬ風情の佇まいの参道にも趣を感じます。

手作りおもちゃ委員会の皆様、連日のご活動大変お疲れ様でございました。



手作りおもちゃのブース

「アクティブシニアフェア2008」開催



パネルディスカッション

11月8日大阪府庁内で「アクティブシニアフェア2008」が盛大に行われました。早朝から展示、飾り付けにと賑やかな幕開けになり、シニア世代の元気をアピールしました。府庁正面玄関、一、二階の回廊に59の出展ブースが並び、多くの協賛協力後援共催の会社団体が関わり、隣の大手前栄養学院では「なにわ伝統野菜」の講演と料理がありました。12時より正面玄関ロビーにて、タレントの豊島美雪氏の総合司会で元阪神タイガース野球評論家の亀山つとむ氏のトークセッション、続いて「シニアが拓く未来」と題してディス

カッションが開かれました。老人大学の奥谷氏、大阪府 SA の佐藤氏、シニア自然大学の長井氏、大阪元気ネットワークの三和氏、岬町作りの渡辺氏の 5 名のパネラーが各団体の活動、現状、方針等話されました。

途中、橋下知事の登場で会場が一気に盛り上がり、皆さん携帯カメラを上げ撮影に余念がありませんでした。長井さんが直訴と称し、行政に最大の協力を惜しまない事を約束されると知事も其れに応えられるなど、大阪府高

齢者大学校がいかに大きな力を占めているかを示されました。

広範で多彩なイベントでしたので取材にも限界が有りましたが、シニアパワーの素晴らしさを感じた一日でした。寒い中、大阪市 SA をはじめ各地区 SA から大勢のボランティアが参加し、お疲れも無く頑張ってくださいました。

関係者の皆様有難うございました。

NPO 法人 大阪府高齢者大学校事務所開き

11 月 10 日、NPO 法人大阪府高齢者大学校の事務所開きが行われました。大阪港天保山の観覧車を遠景に、落ち着いた雰囲気のあるビル内の 422 号室です。明日からグループ内で順に当番が有り、いよいよ民活の事業が始まります。講義室階の廊下も勿論広く、二階の事務、印刷等の設備も完備しており、フロアも寛げるソファやテーブルも多く十二分な施設と感じました。国際交流関係の資料も充実しているのか、閲覧に来ている人もおられました。静かな落ち

着いた環境で受講には最適と思われます。近くに海遊館があるのでアクセスもよく大阪港駅から 3 分程で立地条件も良い様です。

当日は定例の理事会も開かれていて、理事の皆様心よく、写真撮影に応じて下さいました。有難うございました。

ここで学ばれる新受講生の、修了後の活躍を期待したいと思います。



教室が開かれるビル



理事のみなさま

地区 SA 便り

S A 守口・門真の会

S A ・歌体操教室・「タンポポ」

会員からの熱い声援で、毎月増え続け 80 名近くの名簿が出来ました、年度も変わり 9 月より 3 年目に入り（グループ）として組織

幸田 益光（14 期地活）

に切り替えて昨年より運営しています。

平成 19 年 7 月より「歌体操教室」の名前を「タンポポ」と名称を付けてから、市民の皆

様も加入しやすくなったのか、会員が増え続けて困っているのが現状です。



手をつなぎイベント参加

「タンポポ」として「生き生き健康で、明るく、楽しく」をモットーに、手をつなぎ親睦の輪を広げ、SA インストラクター・会員も共に若返って貰おうと、会の名称花言葉（愛の信託）に願いを込めて、会則も作り運営しています。

参加者の顔と名前が一致するよう会員同士でも親睦の輪を広げて行くよう、今年も一泊研修旅行に参加を呼びかけ、9月23～24日北陸・山中温泉に行き親睦を深めてきました。「SA 守口・門真の会」歌体操インストラクター・会員の人達も頑張っています。

S A 高槻

日中語学・文化交流活動について

島貴 清司（18期国際）

2004年から日中語学・文化交流活動を始めて今年で4回目となる。この内の1,2回目はどちらかと言うと語学研修交流が主な内容で、高槻市内で中国語を学んでいる有志で実施していた。おもに北京工業大学、天津職業大学で日本語を学んでいる学生たちと、日中の衣・食・住についてお互いの文化を中国語と日本語で紹介しあうという方式であった。

北京工業大学には、高槻の中国語教室で先生をしていた方が帰国され北京工業大学で勤務されている。天津職業大学には、私が2001年から2002年にかけて、天津師範大学中国語研修生として留学していた時の友人が日本語の教師をしている。このような縁でその後毎年4月に継続活動をしている。

その後、2007年、2008年の交流活動は、2006年4月にSA18期国際交流専攻コースを終了し、国際交流活動に興味を持つ同期生や、大阪府外国人サポーター研修終了者や、大阪府外国人児童生徒学校教育サポート研修終了者などと国際協力・交流活動を実践していく中で、従来の語学研修交流だけではなく、SA研修で培った日本のおもちゃ作りや折り紙・歌・マジックなど日本の文化を多く携えて交流をすることになった。特に日本での外国人に対する日本語指導ボランティアの重大性が叫ばれ、この点においても現地実践と現地調査を行うこともこの交流活動の大きな目的の一つとなった。現地の大学幹部からも良い評価を受け、学生達からも喜ばれている。また、参加者も現地の学生とのふれあいや、日本語授業の現場も見学出来て大変良かった、との声が多い。

現在は、北京工業大学・天津職業大学の他に、北京林業大学、天津理工大学・天津師範大学などからも交流の要請が来ている。今後も継続していきたいと思う。（2008年4月実施の詳細については、SA連協ホームページ新着更新情報の08/06/22付も併せてご参照ください。）



天津職業大学で

S A 富田林

「放課後子ども教室」への参加

SA 富田林では各期夫々独立した活動を行いながら、地区連絡会に置いて情報交換を行っています。ここでは18期生の仲間3名の市立久野喜台小学校を核にした藤沢台、寺池台、錦織小学校などの子ども教室への参加について紹介します。

SA 講座での地域活動グループとして教育委員会への働きかけ、久野喜台小学校の子ども教室への参加に始まり、地域活動グループを中心に他市の同期の皆さんとのグループ活動(トン・トイクル)としてご協力いただき、地域の指導員(ボランティア)とも協力しながら丸3年間、今では久野喜台や藤沢台で夫々月に2回位活動しています。1回はおもちゃ作り、後の1回はスポーツで子ども達や保護者の方達と楽しい一時を過ごします。

前回の久野喜台でのおもちゃ作り：折り紙で作るシャボン玉を紹介します。対象児童は1~3年生、前もって参加希望の申込をして貰い当日の参加数は70名、2クラスに分けて指導員22名(内SA15名)で対応しました。



教室の様子

S A 寝屋川連絡会

5,000*_□「ヨーロッパ鉄道の旅」

平成20年5月26日から6月19日まで25日間の旅を楽しみました。

参加者は10名(女性8名男性2名)平均年

谷 宏(18期世代間)

ホログラム折り紙を5mm幅にカットし8枚を放射状に上下でシールにストローと共に貼り付けストローに竹串を通して先端をシールに固定して出来上がり、竹串を回せば下シールが上下に移動してホログラム折り紙が膨らんだり縮んだり、きらきらとシャボン玉風に見えるものです。

少し時間が余るくらい皆早く上手に出来ました。上手に回して喜ぶ子、激しく回して巻きつける子、固定部分をはがしてしまう子、各指導員の皆さんはせっせと子ども達に手を貸してのサービス、微笑ましく見ながらもやっぱり少し、日ごろから気になっていることがあります。

材料の準備から、加工のお手伝い、どうしても上手に早くできるように、簡単に出来るようにと考えて準備する。どうかすると子ども達に経験させることの大切さを忘れている場合が多いように見受けられます。

又、指導員(今の年配者)は子供達や、孫達の機嫌を取りすぎているのでは。お小遣いをやって嫌がることは言わないで、自分は好きなことを他所で勝手に楽しむのが賢い老後の過ごし方と考えて居る年配の方が多いように思え、世の乱れの一因ではないかと憂えています。

年配者はもっとシャッキとして子供や孫のことを考え、良いことは良い、悪いことは悪いと発言し、黙してやる必要があるのではないのでしょうか。とは言っても孫達の年代と楽しく接触できるのは幸せなことですね。健康である限り続けたいと思っています。

は主として鉄道です。

ポルトガルでの最西端にタッチ、と旅のハイライトは数々ありますが、特にドイツゲルビール村でのふれあいです。村の小学生、中学生に日本の文化の一端を紹介したこと。「折紙」、「童話」、箸を使つての「豆つまみ競争」、「紙芝居」等、最後に全校挙げて炭坑節を歌い踊りました。村を挙げての歓迎とホームステイの体験は、個を大切に作る土壌に培われた人間性を肌を感じつつ、巣立ったお子さんのベッドに体を沈めたとき、この家の一家団欒を垣間見る思いでした。美味しい手料理とコーヒーの香りと味は最高でした。

総行程 5,000 ㎞のヨーロッパ鉄道の旅は感動と新しい発見の旅でありました。この旅を企画して下さった先達に心より感謝します。



全員で

S A 箕面・豊能

外国人により良い生活をしてもらうために！

箕面市には、大阪大学の留学生や商社マン等の外国人が家族とともに住んでおられます。お隣の国の中国や韓国、東南アジア、中近東、アフリカ、アメリカやヨーロッパ、南米など世界各国から来られています。

さまざまな国から生活習慣や宗教などが違った方たちにお手伝いできるサポートは、国際交流の形として「多文化共生」を考える必要があるのではないのでしょうか。

イベント中心の交流だけでなく、日頃の支援活動を通じて外国人が快適に生活できるように信頼関係を作りたいと考えています。また、地域で問題になっていることで日常生活に必要な事柄は、地域コミュニティ会議へ出席することによって外国人にも情報交換をして伝達してあげることが必要です。漢字を読めない外国人は、市報「もみじだより」では理解できないだろうし、配られているのかどうかも不明です。

具体的な活動としては、地域に住む外国人とのティータイムを楽しみながら、お国柄や食生活、宗教、マナーといった話題を通じて、日本との類似点や相違点を見つけて、相手の国のことを知ることと共に、わ

高橋 夫美（18期国際）

が国の事情も理解してもらうように努めたいと思います。そうした活動を通じて、地域の問題点、例えば新しい道が出来たことや交通規制を伝えたり、お祭りや盆踊りなどの行事にも誘えるようにしたいものです。

このような話し合いで聞いた外国人の悩みは、毎日のスーパーなどで英語を話せる人が少ないので買い求め難い、急病が出たときにどこのお医者さんへ行けばよいのか分からない、ラマダンが終わったときや子どもの誕生日パーティで仲間が集まって喜びを共にする場所がほしい、等々です。帰国するときの電気、ガス、水道の休止手続き、引越ゴミの処理や市役所への提出書類などもわかりにくいようです。

逆にサポートしている私たちも、悩みや気がかりなことがあります。生活習慣や文化が異なるためなのか、夕方から夜間の外出が多いことです。また、帰国時には持ち帰らない家具や道具は、外国人同士で融通し合っている場合もありますが、処理しきれないで置いていかれることもあるそうです。住み慣れた家を離れるときは、炊事場やトイレなどの掃除は、後に入る人のためにもきれいにしてほ

しいとも思います。

こうした交流活動を進めていくには、正しく、美しい日本語を少しずつでも学んでもらうことだと思います。「おはようございます」の挨拶「ありがとうございます」という感謝の気持ち「ごめんなさい」という謝りことばなど、簡単な言葉から近所の方たちとのコミュニケーションが育っていくように努めていきたいと思うこのごろです。



ツグミ(撮影:大阪市 西岡 稔)

SA 交野連絡会

活動状況

SA 交野という名目では、活動していないが、SA 各期の者がそれぞれサークルを持ち、SA 修了者を主に、外部からも賛同者を引き入れ活発に活動している。

主なサークルは次のとおりである。

1) 玉手箱

交野市ボランティアセンターを拠点にし、おもちゃ作り、マジック、演芸、ニュースポーツ等の持ちネタで、地域のイベントや施設訪問、学校などに10月だけでも14回の活動が組まれていた。会員36名

2) 矢車草 車椅子ダンスサークル

障害者、高齢者施設3~4回/月訪問
練習2回/月 活動5年目 会員17名

3) HAND 歌体操サークル

活動9年目 会員29名、高齢者施設、デイサービス、地域のふれあいサロン等で、毎月30回前後の活動は驚きである。
寝たきりにならない、させない、つくらないがモットー

4) 糸ぐるま

寝たきりの人、機能障害を持った人、高齢者の為の、着やすい、着せ易い衣服を工夫し制作。改良、寸法直し等も希望に応じて作成。

車椅子用雨具、手提げ袋その他介護衣料品を、活動拠点のボランティアセンターに見が多数展示してある。

八重尾 徹(18期国際)

会員31名 毎週火曜日が活動日

5) 北銀河15

SA15期北河内のサークル。会員32名
毎月の例会とおもちゃ作り等で、近隣の施設を4~5回/月定期的に訪問。
会員の研修旅行や食事会等開催し、親睦を図っている

6) PLANET

年2~3回外国人を招いて日本の四季折々の行事を紹介する国際交流イベントを開催。
また、年2回SA枚方と共催する「歌声プラザ」は毎回好評で、どのイベントも50~80人の集客で安定している。

7) 日本語プラザ

日本語教室を毎週月曜日9:45~11:15と金曜日14:30~20:00の週2回開催、
場所は交野市国際交流会館
現在学習者11名、スタッフ15名。



ミヤマホオジロ(撮影:大阪市 西岡 稔)

S A吹田

来年度からの高齢者大学校の成り行きが重大な局面を迎え関係者の懸命な取り組みが伝わってきている。来年4月の開校でみんなの努力が実ることを固唾を呑んで注目している。SA養成講座として20年以上の実績を持ちながら、ここに来てあまりの激動に地域SAとしては戸惑いを禁じえない。

SA吹田としては、昨年度の大阪府高齢者ワーカーズ先導モデル事業の認可を契機にSAに拘らず一般市民を呼び込み幅広い活動を展開すべく「心ふれあいネット」の組織を立ち上げた。

SA吹田+心ふれあいネットで今後の活動を展開していく考えである。現在SA吹田の会員127名と心ふれあいネットの会員10名で活動をしている。おもちゃ作りや歌体操というSAの代表的な活動とは別に最近小学校、中学校の授業支援の活動が急激に増えている。小学校や中学の「アイマスク」「車椅子」体験授業の要請が多く、高校では家庭科の授業で

小川 忠夫（18期世代間）

高齢者との交流として「竹細工」の授業などがある。

国際交流では「小学生と外国人留学生との文化交流」が小学校の授業として10数校で行われている。吹田市や教育委員会、社協からの期待や要請も多くなってくると、SAとしての体制固め、要員の確保など果たすべき事は多い。

今後の高齢者大学校の行方、SA連協のあり方など、SA吹田の活動に直接関わる情勢を見極め今後の活動に備えたい。



アカウソのオス(撮影:大阪市 西岡 稔)

大阪市SA

大阪市一斉清掃クリーン週間

11月1日9時に大阪歴史博物館前にて集合、9時半より清掃作業をはじめました。難波の宮の遺跡の広大な面積を18名で行いました。此の活動は西ブロックが地元老人会（会長はSA修了者）と協働され続けられてきました。又、西ブロックは毎月一回公園清掃にも力を入れておられます。

広大な地ゆえ、全員が散らばり多くのゴミを集めました。見た目は少なくて整備が行き届いている様でしたが実際はボランティアの方々の努力も大きいものが有ると思います。

翌2日は此の地で「四天王寺ワッソ」が開かれるので準備が始められていましたが、本日の晴天の様に天候に恵まれればと願いました。帰りは有志で近くのレストランで昼食を取りまし

服部早樹子（19期福祉IT）

たが何とおいしかったこと。

大阪市SAの皆様、来年は是非参加して気持ち良い汗を流しましょう。



難波宮跡 清掃ボランティア

S A 養成講座担当講師の方からのメッセージ

国際交流専攻コース

(社)青年海外協力協会 近畿支部
津田 昌二

シルバーアドバイザー養成講座の国際交流専攻コースを、今年度初めて担当させていただきました。コーススタート前の事務局の方との話し合いの中で、このコースを担当するに当たり「個人ではなく、私たちの組織(青年海外協力協会)としてのノウハウをぜひとも受講者の皆様と共有したい」という事をお話しました。また、昨年度まで担当されていた先生からは「シニア層の方々は様々なバックグラウンドを持っておられる」とお聞きしておりました。

実際ふたを開けてみると、私たちの組織のノウハウ云々よりも、受講者の皆様のバックグラウンドの多様さに驚きました。

国際交流専攻コースでは 国際 というキーワードで様々なジャンルで活躍されている方をゲストにお招きし、具体的な活動例や問題点などをお話いただいております。例えば、海外支援を直接行っている「国際協力 NGO の担当者」や「国際協力ボランティア」。国内にいる外国人への支援を行っている「在住外国人相談窓口相談員」や「留学生支援 NGO の担当者」などなど。

国際 に対する取り組みというと、どうしても海外への直接支援が最初に思い浮かんでしまいますが、在住外国人労働者、多文化



共生、環境破壊など、私たちの身の回りにも取り組まなければならない課題も多く存在します。一方、受講者の皆様の中には、海外での駐在経験をお持ちの方、ホームステイ受入を行っている方、在住外国人に日本語を教えられている方など、既に 国際 分野にある程度の知識と経験をお持ちの方も数多く見受けられます。これらの知識と経験を活かす事により「参加して交流する国際」から一步踏み出して、「自ら働きかけて課題を解決する国際」への段階へ進んでいただく一助になればと思っております。

グローバル化が叫ばれている現在、受講者の皆様の知識や経験を地域や国際社会でどのように活かすことができるのか、そのヒントを共に見つけてまいりましょう。

地域活動専攻コース

地域活動にはいろいろな分野の活動があります。防災・防犯・環境・文化・児童健全育成等の社会教育・国際交流そして福祉活動など…。私たちが安心して生き生きと暮らしていくためには、行政などの官公によるサービスだけでなく、私たちの生活圏域である「地域社会」の

竹村安子

中で、上記の分野の活動が住民・市民により行われる必要があります。

そして、これからは少子高齢化、高齢者世帯の増加、人間関係の希薄化、世代による価値観の変化などにより、より早いペースで地域社会に多くの課題が山積していくことが予想され

ています。

地域活動コースでは、地域団体・ボランティア・NPO・施設等が取り組んでいる高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉・住民福祉活動などを理論だけでなく、校外学習やワークショップなどを通じて、「誰もが住み慣れた地域で、安心して、安全に、自分らしく、住み続けていく」ためには、住民・市民が自らの地域を創っていくことが大切であることを学びます。受講生の方々が地域活動に一步を踏み出すお手伝いができればと思っています。

自分らしい地域活動を楽しまれることを期待しています。



広報委員会・広報誌部

【編集後記】

残暑の中での前号の反省会、キンモクセイの香りが漂う頃の編集会議、公園の樹木が紅葉に染まる頃の校正作業、そして会員の皆さまへ本号の配布が始まる頃には、街にはクリスマスの

イルミネーションが溢れているかと思っています。

「一寸の光陰軽んず可からず」を痛感しながら本号の発行に至りました。

松本 勉 (SA 茨木 20期福祉 IT)

【投稿募集】

本号に寄稿いただきました皆さま、ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

会員の皆さまの投稿を、お待ちしております。

こんなボランティアをしています

こんなことに凝っています

こんな所へ行ってきました

ちょっといい話

俳句、川柳(文字数自由)

その他 課題自由

600～800字程度、写真1～2枚。

4月号の原稿締切日は、2月末です。

投稿は編集事務局まで、FAX、又はEメールでお願いします。

なお、投稿多数の時など誌面の関係上、記載が次号になる場合もあることを、予めご了承下さい。

・FAX. 072-638-6546

・Eメール: benm235@ybb.ne.jp